

項目	検討内容	新友会	共産党	公明党	改革ネット
意見交換会について	・現状で既に、委員会単位で関係団体等と意見交換を行っているが、その上で意見交換会を行う意義	・既に委員会単位で意見交換を行っている項目については、意見交換会のテーマから除外する。 ・委員会単位で関係団体等と今後も意見交換会を行う。 ・高校生を対象にすることで、現状と違う意見交換にする。	委員会関係だけでなく広くやることは、意味のあることと考える。	広く市民と意見交換をすることで、議会が直接意見を聞く広かれた議会となり、議会としてどのような取り組みをしているのか市民に知って頂く機会となる。	委員会で行う意見交換会では、関連する団体、業界の役付きの方にご出席いただいている。そうした枠組みや役職にかかわらず、広く市民と意見交換を行う機会として、別に設けることは重要と考える。
	・意見交換の単位 (議員全員、常任又は特別委員会ごと、ランダムに分けた班など)	・意見交換にはテーマの絞り込みが必須、従って特別委員会単位が妥当。 ・テーマによっては単位にこだわらなくてよいと考える。開催場所や発言機会を考慮すると、一つのテーマについて意見交換する場合においてもランダムな班分けは必要。 ・常任委員会と特別委員会の単位で。	これまで実施してきた議員全員でやるのが合理的である。	現状の関係団体については主に常任委員会。市民との意見交換会では特別委員会で行うことが良いと考える。	ランダム。年間に複数回行う想定で、テーマや開催地等に応じ、意欲や関心のある議員の手上げを基本とする(年間最低1回は出席するようにする。複数回参加も可)。
	・テーマ設定の方法	・各常任委員会又は特別委員会ごとに委員会において設定する。 ・学生からお年寄りまで幅広く参加し、発言できるようなテーマ設定が必要だと考える。	これまでと同様に、特別委員会のテーマに沿ってやるのがよい。	特別委員会で調査研究している事項は現状、本市で課題となっているものであるため、特別委員会ごとのテーマ設定が適当と考える。	その時々議会の課題を取り上げる。 テーマをあまり絞らずに、「これからの長野市について」のような比較的広い設定で、幅広く参加者を募るのも良い。
	・開催方式	・同じ人が複数回参加することのないよう、4特別委員会の同時開催 ・年複数回の開催を検討すべき。市役所に参加者を集める方法でなく、議会から地域に出向く開催方法を検討すべきだと考える。中学校や高等学校への出前議会も検討すべき。 ・人選のバランスは、会派を超えてバランスよく委員会単位で動くが、テーマは設けない。	これまでのように20人ぐらいが、発言も保障されるので、適当な規模である。	現在の広く希望者を募る方式が良いと考えます。委員会ごと意見を交換する方法が良い。また、関心はあるが意見を発言することに抵抗がある方に対して、インターネット中継等で視聴可能な環境等を整えることも良いのではないかと考えます。 また、意見交換会に参加した方に意見交換会の報告書や特別委員会9月に取りまとめる報告書を送り、その後の議論の結果について報告することもよいのではないかと。	ワールドカフェ形式。市民が議員と直接話をする機会を増やし、また、議員個人としても発言しやすいため。 「年間に複数回開催の想定」では、内容に応じて開催日や場所の設定をより自由に行えるようにする。
	・開催場所選定の方法	・テーマにより、市役所以外にも出向いて実施することも有効 ・委員会ごとにテーマに合った地区へ出向き、公民館などで開催する。	長野市の南北2か所ぐらいが適当	市役所から出て、市民に近い場所で行うことが良いのではないかと。あるいは市民に街頭でいくつかの項目立てをしたアンケートを用意し、開催場所やテーマ、回数を決めることも良いのではないかと。	(年間に複数回行う想定で)市内各地へ出向いて開催する回と市役所等中心市街地で行う回とを組み合わせ開催する。 オンライン開催も検討する。
	・開催回数	・年1回～2回 ・年複数回の開催を検討すべき。	多くても2回(春夏、あるいは冬)		年4～5回(これまでの委員会毎の運営を1回と考える)。 この中で、地域巡回する回と、市役所等中心市街地で行う回を併用する。

項目	検討内容	次世代長野	倉野立人議員	小泉一真議員	山崎裕子議員	山崎昭夫議員
意見交換会 について	・現状で既に、委員会単位で関係団体等と意見交換を行っているが、その上で意見交換会を行う意義	テーマが委員会の意見交換会で取り扱った同系のものとなった場合、「有識者」や「市民」や「関連事業者」を広く募り意見交換をすることで、広く意見を聴取できる点で意義がある。			希望する市民と意見交換会を行う意義はある。	関係団体などの枠をなくし、広く声を聴くという事とします。「議員が街で市民の声を聴く！」というコンセプトで意見交換会を進めるというところに意義があると思います。
	・意見交換の単位 (議員全員、常任又は特別委員会ごと、ランダムに分けた班など)	常任④・調査研究特別④+議会報編集の委員会ごとまた、所属委員会以外でもテーマに応じて参加を希望する議員は出席届を提出し参加可能にする。			テーマが明確であれば特別委員会ごとに行う。	ベテラン議員と新人議員を織り交ぜ、ランダムに分けた班で行ないます。
	・テーマ設定の方法	常任④・調査研究特別④+議会報編集の委員会ごとでテーマを決定する。事務負担が大きすぎる場合、そのテーマの優先度に応じて選別する。(各委員長の報告を基に、活性化委員会が決定)			今までどおり、委員会で協議する。	議会活性化委員会一任で決定します。
	・開催方式	ワールドカフェ方式でなるべく少人数でグループを分け意見を共有していく。			対象やテーマを明確にする。 例：「災害時における障がい者の避難について」大学生を対象に行うなど。 今までどおりの形式で行う場合には、特別委員会で意見に対し回答を出す(その場で或いは後日)。	対話方式で実施します。
	・開催場所選定の方法	市内のカフェをお借りする。(中山間地域の問題は中山間地域にて行うなど)また、時間帯は土日の日中の限らず、平日の夜の設定も念頭に入れる。			テーマにより選定する。	市役所或いは旧町村部で開催します。
	・開催回数	同一テーマで複数開催より、多様なテーマを数多く行う。			1回でよい。ただしフィードバックを行う。	1回又は2回の開催を目指せればと考えます。 2回の場合は、市役所と旧町村部とそれぞれ分けて開催する方向で検討します。